

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Aグループ 庄原市立総領小学校 石田 かなこ
指導学年 第1学年 4名

1 単元名及び教材名

「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」を作り、学校のみんなにしょうかいしよう
「いろいろなふね」（東京書籍「新編 あたらしいこくご 一下」）

2 児童観

本学級の児童は、1学期の説明的な文章を読む学習「どうやってみをまもるのかな」では、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える力（構造と内容の把握）を身に付けさせることをねらった。文章に出てくる3種類の動物の身を守る方法が同じ順序で書かれていることを理解させるため、まず、叙述と挿絵を結び付けたり、説明されている内容を動作化したりしながら文章を読ませた。その上で、文章の内容に即してサイドラインを引かせることで、3種類の動物の身の守り方が同じ順序で説明されていることを4名中3名の児童が捉えることができた。

単元の「精査・解釈」の学習過程では、読み手として必要な情報を選び出すために、動物たちの身を守る方法の中で最も驚いたものを選ぶという学習活動を行い、「～（児童が選んだ、動物の身を守る方法）に驚いた。」と表現することができた。しかし、重要な語や文を考えて選び出す力を身に付けるには至っていない。「考えの形成」の学習過程では、「精査・解釈」の学習過程で選び出した、児童自身が最も驚いた動物の身の守り方について、文章の内容と自分の体験をどのように結び付けて理解を深めた上で驚いたのかを表現することに難しさを見せた児童が1名いた。とはいえ、「精査・解釈」や「考えの形成」の力を身に付けさせることをねらった単元はまだ行っておらず、本単元では、文章の中の重要な語や文を考えて選び出し、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ力をどの児童にも確実に身に付けさせたい。

3 指導観

指導に当たっては、単元の導入で、教材文や一般図書などの様々な乗り物について説明された文章を読み、選び出した文章の中の重要な語や文と、文章の内容と自分の既有的知識や経験とを結び付けてもった感想を「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」にまとめて図書室に掲示し、上級生や先生に見てもらうという言語活動のイメージを児童にもたせる。こうすることで、本単元において文章を読む目的を明確にする。

教材文の構造と内容を捉える段階では、「やく目」と「つくり」に色分けをしてサイドラインを引き、「中」の部分の4種類の船についての説明は、それぞれ同じ段落構成になっていることを捉えさせる。また、挿絵や写真を文章と結び付けながら読むことで、児童に馴染みのない言葉でも理解しやすいようにする。さらに、「そのために」「だから」という接続語で結びながら「やく目」と「つくり」を整理することで、それぞれの船は「やく目」に合った「つくり」を有していることを理解できるようにする。文章を読みながら、その船と同じような「やく目」や「つくり」になっている乗り物や身の回りにある物を想起し、出し合うことで、自分の知識や経験と結び付けやすくする。教材文に事例として取り上げられている4種類の船の「やく目」と「つくり」を整理した後は、「やく目」と「つくり」を紹介したい船を1つ選び、自分の知識や経験と結び付けて感想をもち、「のりものカード」にまとめさせる。自分の知識や経験と結び付けて感想をもつことは初めてなので、教師の作った「のりものカード」を示し、感想を表現するための視点を明確にする。また、ワークシートにもまとめるための視点を示すことで、選んだ乗り物と既有的知識や経験を結び付けながら解釈し、理解を深められるようにする。解釈や理解が難しそうな場合は、文末表現の例を示したり、教師と話しながら考えたりできるようにする。

終末では、自分の選んだ乗り物について調べてまとめさせる。本から「やく目」と「つくり」を選

び出す際につまづきを見せた児童には、既習内容や挿絵、「なにををするための乗り物でしょう。」などの問いの文を掲示し、それらを基に考えられるようにする。

また、単元の学習が始まる前から教室に乗り物に関する本を準備し、児童がいつでも乗り物に関する本を読める環境づくりをしておき、その本の中から紹介したい乗り物が選べるようにする。

4 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・ 評価方法 等
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・知っている乗り物を出し合う。 ・乗り物について調べ、「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」を作って図書室に掲示し、学校の人々に紹介するという単元のゴールを共有し、学習の計画を立てる。 ・範読を聞く。				
二	2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	○「いろいろなふね」を読み、「やく目」と「つくり」を選び出す。 ・文章全体の構成を捉える。 ・客船の「やく目」と「つくり」を見付ける。 ・フェリーボートの「やく目」と「つくり」を見付ける。 ・漁船の「やく目」と「つくり」を見付ける。 ・消防艇の「やく目」と「つくり」を見付ける。	○			〔知識・技能〕 <u>ノート</u> ・事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。
	7 (本時)	○4つの船の中から1つ選んだ船に対する感想を「のりものカード」にまとめる。		○		〔思考・判断・表現②〕 <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。
	8 ・ 9 ・ 10	○自分の調べたのりものについて、「のりものカード」にまとめる。 ・調べたい乗り物を決め、並行読書した乗り物に関する本から「やく目」と「つくり」を選び出す。 ・「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」を作る。		○	○	〔思考・判断・表現①〕 <u>ワークシート</u> ・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 〔主体的に学習に取り組む態度①〕 <u>児童の様子</u> ・進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、今までの学習を生かして、「のりものカード」にまとめようとしている。
三	11	○学習を振り返る。 ・単元を通して、できるようになったことやがんばったことなどを振り返る。				

5 本時の学習

(1) 本時の目標

教材文に出てくる船の「やく目」と「つくり」と自分の経験とを結び付けて解釈し、理解を深めたことを表現することができる。

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 見通しをもつ。 2. めあてをつかむ。	□前の時間までにしたことを振り返りましょう。 ・客船、フェリーボート、漁船、消防艇についてまとめたよ。 ・どのふねにも、「やく目」と「つくり」があったよ。 ○「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」を作り、図書室に掲示することで、学校のみんなに紹介するという目的を確認し、学習の見通しがもてるようにする。 ◆学習計画を掲示し、本時がどこか分かるようにする。	
ふねののりものカードをつくろう。		
3. 「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」のまとめ方を確認する。	□のりものカードにまとめるときのポイントはどんなことでしょう。 ・「やく目」と「つくり」を書きます。 ・先生の「のりものカード」には、乗った時のこともかいてあるよ。 ○教師の作った「のりものカード」を見て、まとめるポイントを押さえる。 ◆選んだ船と自分の知識や経験と結び付けて考える時の視点や文末表現などを示す。	
4. 教材文の4つの船の中から、紹介したい船を1つ選ぶ。	□学校のみんなに紹介したい船を1つ決めましょう。 □どうしてその船を選びましたか。理由を友達に話しましょう。 ○4つの船の写真を掲示する。 ○話型を示し、「○○と比べて、... だから、～と思ったので、選びました。」のように、話をさせる。	
5. 「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」を作る。	○「やく目」と「つくり」は、これまでの学習を基にまとめられるようにする。 ○早く書き終えた場合は、作った乗り物カードの交流をする。 ◆補助発問を掲示し、考えやすくする。 ◆1人で考えることが難しい場合は、話をしながら一緒に考えられるようにする。	「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 (ワークシート)
6. 本時の振り返りをし、次時の活動を知る。	□今日の授業の振り返りを書きましょう。次の授業でやってみようと思うことも書きましょう。 ○振り返りのレベルを掲示し、意識させる。	

(3) 板書計画

(め)					
教師の考えた「のりものカード」	消防艇の写真	漁船の写真	フェリーボートの写真	客船の写真	ふねののりものカードをつくらう。
					いろいろなふね
・がすごいいました。	④ おもったこと・かんそう	③ ①と②をくらべて	② じぶんとむすびつけて	① やく目 つくり	・は、くやく目があります。だから、…があるので、○○できます。
	・くがにいます。 ・くがちがいます。	・くのにったことがあります。 ・くを見たことがあります。 ・くをきいたことがあります。			

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

ア 図画工作科の学習と関連させて

本単元の学習に入る前に、乗り物への興味関心を高めるために、図画工作科「はこでつくったよ」の学習で、箱を使ってオリジナルの乗り物を作るという活動を行った。児童は作りながら、「食べ物売る船があるから、アイスクリーム屋さんの船を作ろう。」「ショベルカーを載せたトラックを見たことあるから、作ってみたい。」など、既存の知識や経験から、どんな乗り物を作るか、何が付いているかなど、考えながら作ることができた。



写真1：児童の作ったオリジナルの乗り物

イ 考え聞かせ

単元の1時間目に、「くるまかします」(鈴木まもる作・絵)の考え聞かせを行った。表紙を見せ、「どんな乗り物がある?」「何が付いている?」など、児童に問うと、絵を見て分かることやこれまでに見たことがあることなど、たくさんの気づきを言うことができ、単元の導入につなげることができた。

ウ 教科書の挿絵の活用

「いろいろなふね」の教材文を読む前に、4つの船の挿絵を提示し、船の名前や知っていること、挿絵を見て気付いたことなどを自由に出し合わせた。フェリーボートに乗ったことのある児童は、「フェリーに乗って、〇〇（場所）に行ったことがある。」と、自分の経験を伝えていた。また、漁船や消防艇については全員知らなかったが、「魚のことを『ぎょ』っていうこともあるから、漁船って名前かな。」と、既存の知識から予想し、考える児童もいた。

エ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すための工夫

第二次の「いろいろなふね」の読み取りでは、それぞれの船の「やく目」と「つくり」、「そのつくりがあるとできること」について、サイドラインを引きながら選び出させるようにした。重要な語や文を考え、選び出せるように、「何をするためのふねでしょう。」（やく目）、「何がありますか。」（つくり）、「そのつくりがあると、どんなことができますでしょう。」（そのつくりがあるとできること）のように問うことで、文章の内容を理解する上で重要な語や文を自分で考え、選び出せるようにした。また、それぞれの船についてまとめる時は、「〇〇（船の名前）は、～やく目があります。だから、…があるので、〇〇できます。」という文型を示し、「やく目」と「つくり」を整理することで、どの船も「やく目」に合った「つくり」を有していることに、全員気付くことができた。本の中から「やく目」と「つくり」を考え、選び出すときにも、同じ視点を与え、ほとんどの児童が自分で考え、正しく選び出すことができていた。

オ 文章の内容と自分の経験を結び付けるための工夫

第二次では、文章を読みながら、その船と同じような「やく目」や「つくり」になっている乗り物や身の回りにある物を想起し、出し合う活動を行った。児童は、「客船は、ホテルと似ている。」「漁船は釣りに似ているけど、1回でたくさん魚がとれることが違ってすごい」など、文章の内容と自分の知っていることと結び付けて考えることができていた。また、児童から出た意見を掲示しておくことで、船の「のりものカード」を作るときの手がかりにする児童もいた。

（2）児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

ア 本の中から「やく目」と「つくり」を選び出すことが難しい児童

「いろいろなふね」の教材文からそれぞれの船の「やく目」と「つくり」を見付けることは、全員できた。「やく目」と「つくり」が分かりやすく書かれており、それぞれ同じ段落構成になっているため、選び出しやすかったと考えられる。しかし、自分が紹介したい乗り物の「やく目」と「つくり」について、本の中から選び出すときには、文字を読むことはできるが、内容を理解することが難しい児童がいた。そのため、「何をするための乗り物ですか。」「何がありますか。」「そのつくりがあると、どんなことができますか。」のように、考えやすくなるような発問を準備しておき、問いかけながら一緒に考えることで、選び出すことができた。また、既存の知識や挿絵と文章の内容を繋げながら、どんな「やく目」があるか、何があるかなどについて教師から児童に投げかけ、児童の発言を「やく目」と「つくり」につなげながら整理した。

イ 「やく目」と「つくり」の関係を捉えることが難しい児童

それぞれの船には、「やく目」に合った「つくり」を有していると理解することが難しい児童がいた。そのため、教科書の挿絵や追加の画像を活用し、そのつくりはどこにあるのか確認しながら、「やく目」に合うように「つくり」があることを理解させることができたと思う。また、「～やく目があります。そのため、…があります。だから、---ができます。」のように、接続詞を使ってまとめさせることで、「やく目」と「つくり」の関係を捉えることができた児童もいた。

ウ 解釈し、表現することや感想をもつことが難しい児童

文末表現を用意し、その中から自分の書きたいことや自分の思いと近いものを選ばせることで、表現しやすくなった。

7 評価の実際

(1) 評価の具体

ア【知識・技能①】

教材文を用いた船ののりものカードの「やく目」と「つくり」の記述内容から評価した。ここでは、「だから」「そのために」のような接続語を用いながら文を作り、「やく目」と「つくり」の関係を理解しているか確認した。

この学習活動において、それぞれの船が「やく目」に合うような「つくり」があるので、どんなことができるのか、つながるようにまとめることができている児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

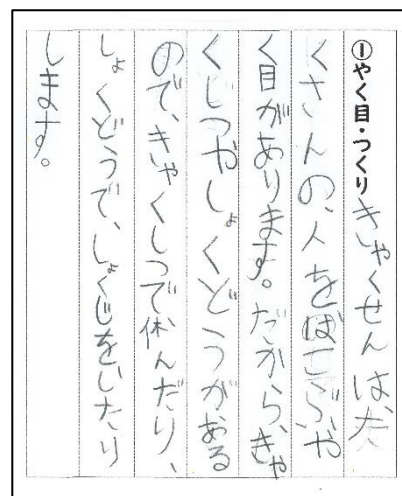


図1 児童が客船の「やく目」と「つくり」についてまとめたもの

イ【思考・判断・表現①】

自分の選んだ乗り物について、本の中から「やく目」と「つくり」を正しく選び出せているかについて評価した。ここでは、「やく目」と「つくり」の関係を理解した上で、のりものカードを作成する上で重要な語や文である、選んだ乗り物の「やく目」と「つくり」を選び出しているかを確認した。

この学習活動において、本から選んだ乗り物の「やく目」と「つくり」を探し、文章の中の重要な語や文を自分で考え、正しく選び出すことができた児童を「十分満足できる」状況（A）とした。また、本から乗り物の「やく目」と「つくり」を探し、文章の中の重要な語や文を考えて、選び出している児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。自分自身で、本から「やく目」と「つくり」を見つけ出すことができなかった児童を「努力を要する」状況（C）とした。「努力を要する」状況にあると評価した児童には、「何をするための乗り物？」「何がある？」「〇〇（つくり）があると、どんなことができる？」のように話をしながら見つけさせたり、写真を見ながらどんな「つくり」があるか教師と一緒に考えたりした。

ウ【思考・判断・表現②】

教材文を用いたのりもののカードの②「知っていること・のったこと・見たこと・きいたこと」、③「じぶんのしらべたのりものと②をくらべて」、④「おもったこと・かんそう」の記述内容から評価した。ここでは、②「①のやく目とつくりと結び付く既知の知識や経験」、③「①と②を結び付けて深めた理解」、④「感想」を表現しているか確認した。

この学習活動においてA児は、客船は「たくさんの人をはこぶためのふね」であることと、いつも乗っているお母さんの車とを結び付け、「きやくせんは、たくさんの人をいろんなところまでつれていけるので、のっている人は『べんりだな』とおもうはずです。」と記述している（図2における赤の傍線部分）。A児の母親の車と比べて考えたことだけでなく、客船の乗客の視点にも立ち、考えをもっていることから、「十分満足できる」状況（A）とした。

きやくせん

④ おもったこと・かんそう

きやくせんはたくさんの人をのせて、きやくせんはたくさんの人をのせて、いろんなところまでつれていけるので、のっている人はべんりだなとおもうはずです。

③ じぶんのしらべたのりものと②をくらべて

わたしのおかあさんの車とくらべて、きやくせんは、たくさんの人をいろんなところまでつれていけるので、のっている人はべんりだなとおもうはずです。



② 知っていること・のったこと・見たこと・きいたこと

わたしのおかあさんのくるまは七人のりです。でも、きやくせんは、たくさんの人をのせることができます。

① やく目・つくり

きやくせんはたくさんの人をはこぶためのふねです。このふねには、やく目があります。ふねの中には、きやくしつやしくしつで休んだり、しくじをしたりできます。

なまえ)

きやくせんは、たくさんの人をはこぶためのふねです。このふねには、やく目があります。ふねの中には、きやくしつやしくしつで休んだり、しくじをしたりできます。

わたしのおかあさんの車は、七人のりです。でも、きやくせんは、たくさんの人をのせることができます。

わたしのおかあさんの車とくらべて、きやくせんは、たくさんの人をいろんなところまでつれていけるので、のっている人はべんりだなとおもうはずです。

図2 A児の客船ののりもののカード

B児は、消防艇は「ふねのかじをけすためのふね」であることと、保育所の時に消防車に乗った経験とを結び付け、自分が考えたことと感想を書いているので、「おおむね満足できる」状況（B）とした。

しょうぼうてい

① やく目・つくり
しょうぼうていは、ふねの火
じをけすためのふねです。だか
ら、このふねは、ポンプやホー
スをつんでいるので、火じがあ
ると、水やくすりをかけて火じ
をけすことができます。

② していること・のったこと・見たこと・きいたこと
ほいくしよでしょうぼう車
にのりました。

③ じぶんのしらべたのりものと②をくらべて
しょうぼう車とくらべて、し
ょうぼうていはふねだから、は
しごがないところがちがうの
で、そらまで水がたかくあが
るとおもいます。

④ おもったこと・かんそう
しょうぼうていは海の中で
火じをけしてびっくりしまし
た。

図3 B児の消防艇ののりものカード

エ【主体的に学習に取り組む態度】

のりものカード①～④が整合するように読み直したり、修正を加えたりしようとする様子から評価した。

この学習活動において、友だちからのアドバイスを聞き入れて修正したり、教師の助言を聞き、読み直し、より分かりやすいカードにしたりしようとする様子が見られた児童を「おおむね満足できる」状況（B）とした。

(2) 児童の評価

- 【知識・技能①】事柄の順序など情報と情報との関係について理解することについての評価は、全員「おおむね満足できる」状況（B）とした。
- 【思考・判断・表現①】「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと

についての評価は、2名を「十分満足できる」状況（A）、1名を「おおむね満足できる」状況（B）、1名を「努力を要する」状況（C）とした。

- 【思考・判断・表現②】「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことについての評価は、1名を「十分満足できる」状況（A）、3名を「おおむね満足できる」状況（B）とした。
- 【主体的に学習に取り組む態度】進んで、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、今までの学習を生かして、「のりものカード」にまとめようすることについての評価は、全員「おおむね満足できる」状況（B）とした。

8 成果と課題

（1）成果

- 単元開始前に、図画工作科の学習と関連させ、オリジナルの乗り物を作る活動を取り入れたり、いつでも乗り物に関する本が読めるように、教室に置いておいたりしたことで、児童は乗り物に興味をもち、意欲的に学習に取り組むことができたように思う。
- 教材文や一般図書などの様々な乗り物について説明された文章を読み、選び出した文章の中の重要な語や文と、文章の内容と自分の既有的知識や経験とを結び付けてもった感想を「そうりょう小学校オリジナルのりものカード」にまとめて図書室に掲示し、上級生や先生に見てもらおうという言語活動を設定し、児童と共有したことで、文章を読む目的を意識させながら学習を進めることができた。
- 「いろいろなふね」の文章を読みながら、その船と同じような「やく目」や「つくり」になっている乗り物や身の回りにある物を想起し、出し合わせる活動を取り入れた。そうしたことで、自分の知識や体験と結び付けて考えることが難しい児童も、のりものカードを作るときヒントにすることができた。

（2）課題

- 教材文は、「中」の部分の4種類の船についての説明が、それぞれ同じ段落構成になっているため、全員「やく目」と「つくり」を正しく選び出すことができたが、一般図書になると、「やく目」と「つくり」を正しく選び出すことができなかった児童への手立てに難しさを感じた。普段の授業などでも、重要な語や文を考え、選び出せるように、サイドラインを引きながら考えさせるなど、読解のポイントを指導していく。
- 船や自分の選んだ乗り物と自分の知識や経験を結び付けることはできた児童が多かったが、解釈し、理解を深め、感想をもつことができた児童は少なかった。のりものカードを書く前に、自分の知識や経験と結び付けて解釈したり、感想をもったりすることのよさを児童に伝えておく必要があったと感じた。また、知っている言葉が少なく、自分の考えを上手く表現することが難しい児童もいたため、語彙を増やせるような指導の工夫が必要だと感じた。

（3）今後に向けて

- 初見の文章を読んだ時に重要な語や文を考え、選び出せるように、これからも国語科の学習を通して指導を続けていく。
- 児童は、文章の内容と自分の知識や経験とを結び付けて感想をもつことが初めてだったため難しそうな様子の児童もいたが、それぞれの知識や経験を思い出し、短い言葉でも自分の考えを表現しようとする様子が見られた。児童が考えの形成をしていけるように、今後も指導や手立ての工夫を考えていく。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
くるま かします	鈴木 まもる	教育画劇
のりものくらべ1 はたらく車	相馬 仁（監修） 元浦年康 ほか（写真） ネイチャー＆サイエンス（著、編集）	偕成社
のりものくらべ2 くらしをまもる車	相馬 仁（監修） 元浦年康 ほか（写真） ネイチャー＆サイエンス（著、編集）	偕成社
のりものくらべ3 電車や てつ道	相馬 仁（監修） 元浦年康 ほか（写真） ネイチャー＆サイエンス（著、編集）	偕成社
のりものくらべ4 いろいろな船	相馬 仁（監修） 元浦年康 ほか（写真） ネイチャー＆サイエンス（著、編集）	偕成社
のりものくらべ5 ひこうきや うちゅう船	相馬 仁（監修） 元浦年康 ほか（写真） ネイチャー＆サイエンス（著、編集）	偕成社